

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年10月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670102047
法人名	医療法人 春風会
事業所名	グループホーム はるかぜ
所在地	鹿児島県鹿児島市西陵六丁目21番21号 (電話) 099-283-0991
自己評価作成日	令和4年8月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和4年9月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

西陵団地の中心部に位置し、周囲にはスーパーや銀行、学校、郵便局、医療機関などがあり、とても利便性の高い所に建っている。道路を挟み同系列のグループホームが2事業所、老健施設も同敷地内にあり、災害時や緊急時の連携が取れている。

コロナウイルス感染予防の為、面会等制限される環境の中でもグループホーム内で毎月行事等を行い、季節の移り変わりや昔の思い出を振り返り楽しい時間を過ごせるよう配慮している。また、地域とのふれあいが難しいため、ホームでの活動の様子を地域包括センターや町内会長、民生委員の方々へ定期的にお送りさせて頂いたり、地域の福祉会や協議会等に参加させていただき、1日でも早く地域の方々と一緒に交流できる日を願い活動しています。食事も、ご入居者様のお好きな魚を直接仕入れることにより、お刺身の提供や旬の魚が提供できるよう取り組んだり、毎日新鮮な食材を購入し提供しています。また、毎日体操やレクレーション家事のお手伝いなどを通して、生き生きと生活できるように支援しています。職員は入居者に明るく接することでいつも、笑顔が絶えないホームを目指しており、法人内の協力医療機関や訪問看護、ご家族、地域の方々とも密に連携をとり、包括的に支援できるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・ケアプランを作成する段階から理念を意識して支援の方法を考え、理念を基にどのような実践につなげるか意識して取り組んでいる。
- ・町内会が三地区合同で地域づくりとしてまちづくり協議会を立ち上げ、色々な事業所と連携をして交流をしている。当事業所として活動し地域の一人暮らしの見守りもしている。
- ・入浴は週3回でかけ流しの温泉で楽しんでいる。1階は午前、2階は午後になっているが希望があればいつでも入れるように支援している。
- ・季節ごとの移り変わりを利用者へ感じて頂く為、外出の計画を立てて年に4回はできる限り外出支援ができるようにしている。
- ・長く勤務している職員が多く、コミュニケーションがよく取れている。管理者は、利用者へ対する支援や情報等は職員全員で共有できるようにケアプランの作成には、すべて職員が関わられるように工夫している。
- ・24時間医療連携体制が取れており、職員の安心につながっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 鹿児島県鹿児島市西陵六丁目21番21号	地域密着型サービスを踏まえた事業所の理念を作っており毎朝、申し送り後に、実践につながるように理念を唱和している。	理念をホール・事務所に掲示し毎朝ミーティング後に唱和している。ケアプランの作成時から理念を基にどのような実践につながるか意識して取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	地域の総会などの行事参加をし、地域の方々との交流を積極的に行うように努めている。また、現状は実施が難しい為、回覧等でコミュニケーションを図っている	町内会に加入して地域の情報は、回覧版で得ている。「まちづくり協議会」の会合があり参加している。地域に向けての活動内容を郵便局や銀行などに1ヶ月位掲示している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	2か月に1回必ず開催している運営推進会議には入居者18名も出席し、ご家族、地域の町内会の会長や、民生委員、地域包括支援センターへお手紙をお送りし、認知症の理解をして頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、避難訓練やイベントなどを通して四季の移り変わりを感じていただく様子を地域の代表者様に郵送し、意見を頂き、サービス向上に活かしている。今年からはホームでの入居状況や事故などの報告も行っている。	会議は2ヶ月毎に事業所内部で開催している。事業所の活動状況や現状を報告し、会議内容を文書にして関係者や家族へ送付している。意見書を同封してFAXで回答を得てサービス向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>当事業所は生活保護受給者の受け入れ施設である。紙おむつの現物支給の事や、生活保護受給者の入居に関しても直接市の担当者と連携をとり協力をしている。</p>	<p>介護保険の更新手続きや生活保護者の相談・運営推進会議の事前打ち合わせで相談したり、グループホームの活動の情報を報告して意見を貰ったり協力関係を継続している。研修は、リモートで参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>代表者及び全職員が「指定地域密着型介護サービス指定基準における禁止の対象となる行為を正しく理解しており身体拘束をしないケアをしている。また、身体拘束にあたらぬも立ちにくい等入居者の目線で行動の妨げにならないよう配慮できるよう研修等を行っている。</p>	<p>身体拘束のマニュアルがあり、身体拘束委員会があり、年2回勉強会をしている。毎月、チェックリストで読み合わせや話し合いを行ない支援について確認している。玄関の鍵は昼間はしていない。外出希望者には一緒に同行している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待について「事業所ミーティング」で研修をしている。スタッフもお互いに見過ごすことがないように注意を払っている。今年度より虐待防止に関する指針の作成、委員会も行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見人制度・権利擁護については事業所ミーティングで研修をして理解を深めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時や解約時には詳しく読み上げて説明し不安や疑問には十分対応している。改定時にはその都度書類を郵送して同意をもらうようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議のご案内を毎回はるかぜメールでお知らせをして意見を聴いている。面会時にもその都度要望等ありませんかと聴いている。玄関にも意見箱を設置をしているため家族の意見が聞きやすい。また、面会制限の中でも定期的にご家族へ近況を報告するよう努めている。	利用者には、日々の会話の中で意見や要望を聞いている。家族からは面会時や毎月ホームでの活動状況を写真を掲載した便りで報告し、電話等で意見を聞いている。月1～2回は電話して家族と連絡を取りあって、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	事業所のミーティングや普段の業務の中でも、積極的にコミュニケーションをとり、職員の意見を確認している。意見は月1回の管理者会議時に質問したり、報告しています。	職員の相談はメールやラインを活用していつでも管理者と相談しやすい環境づくりを作っている。ミーティングやカンファレンスを開き、ケアについて職員の意見を出し合いケアプランを作成している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	条件等の変更点や注意点を管理者会議時に確認し、職員へ連絡するとともに、各職員の得意なことを伸ばしやりがいに繋がるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職場内での介護技術研修等に力を入れて取り組んでいます。また、オンラインでの研修ができるよう整備している。業務中でも介助方法等の相談や一つ一つのケアをなぜ行うのかという事を理解して働けるよう努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>母体の病院や、同系列の特養の研修にも参加、オンライン等の研修にも参加させていただき事業所間の交流ができています。また、同系列のホームとの会議を月に1度実施し、サービスの向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学・入居の希望があった時点で現在利用しておられるところと連携を取り、面談や情報を提供してもらってご家族とも納得いくまで説明し、話を聞くようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	よく利用料や、空き状況の問い合わせがあります。実際にホームを見て戴き、サービスの利用を開始されるように家族との信頼関係作りをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在受けておられるサービスをお聞きし、ここでのサービスを利用することが、適切か、利用者・ご家族が選択できるように支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事のお手伝い等を通して、職員と入居者がともに支え合う意識で関係性を築いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にご家族に連絡を取り、状況や今後の可能性をお伝えすることにより、御家族もご本人の為に何ができるか考える時間を取れるよう配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限の中でも、お電話等で連絡できるようにしています。また、カーテン越しの面会等も感染拡大の状況を見ながら実施しています。	家族に了解を得て、友人や知人と電話で話をする機会を作っている。2・3ヶ月毎に馴染みの理美容師の訪問があり、施設内の指定の場所で行っている。面会制限があり、カーテン越しに行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性や会話にも気を配りホールでの席替えや2, 3人掛けのソファなど置き孤立しないように職員が中に入り支えている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了したり、他のホームへ移動、入院等の場合、その行先に情報提供を行ったり、その後の相談等をおこなったり継続してサービスが提供されるようフォローしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人に希望を直接伺ったり、意向が伝えられない入居者はご家族面会時等に確認している。希望があった際は、必ず申し送り全スタッフが把握に努めている。	一人ひとりの生活歴を参考にし、本人の思いに近づけるようにしている。夜勤時や入浴時に話しを聞きとっている。意思表示の困難な利用者には、日頃の支援の中で思いや仕草・行動等から把握し家族と話し合い、記録している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居申し込みがあった際、訪問し面会を行い本人、ご家族、関係者よりこれまでの生活習慣、生活歴、馴染みのもの等の情報を収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人の睡眠、身体状況を夜勤者へ、同じく夜勤者は夜間の様子を日勤者へ申し送りを徹底しています。心身両面を、総合的に判断して職員はケアにあたっています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プランは、ご本人やご家族の意見を中心に、職員とカンファレンスを行い作成をしています。サービス開始前にご家族に説明・同意サインをもらった上で行っています。必要に応じて変更した場合もプランの変更をしています。	本人や家族へ意見や要望を聞き、主治医や看護師の意見を参考にし職員の日常の関わりで気づいた面なども取り入れ、介護計画を作成している。モニタリングは毎月実施。6ヶ月毎に、また状況により見直しを実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を細かく観察し、食事・排泄・歩行などや心身状態や、本人の発する言葉まで記録して援助し、職員間で共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方のその日の状況に合わせてレクリエーションを変更し、既存のサービスに捉われない柔軟な支援やサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者が安全に安心して地域で暮らすことができるように、地域の行事も伝えるようにしています。運営推進会議の様子も町内会会長・民生委員へ連絡しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回かかりつけ医へ受診し、その方の状況、バイタル等を伝え、ご本人より伝えたいことは伝えて頂き、ご家族の希望等がある際はその時に上申している。	契約時にかかりつけ医は本人や家族の希望を確認をしている。24時間医療連携体制が整っている。訪問看護ステーションから定期的に来訪している。受診は職員で殆ど行っている。他科受診は家族に協力をお願いしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護ステーションとの連携により、体調管理や体調悪化時にスムーズに医療と連携できる体制を整えています。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入居者が入院した際は入院先に情報提供し、こまめに病院やご家族と連絡を取りながら、今後の方針を決定している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化したり、終末期に向けての話は、それが必要になった時点で、主治医に相談し、ご家族に伝えるようにしています。ターミナルについても、可能な限りご本人やご家族様の意向にそったサービスが提供できるよう訪問看護ステーションと連携をとりながら取り組んでいる。</p>	<p>入所時に、重度化した場合についての説明を行い同意書をもっている。マニュアルを基に段階ごとに主治医から家族へ説明を行い、話し合いの場を設け方向性を決めている。看取りの経験も多い。訪問看護と連携して急変時は対応できるようにしている。終末期は家族も部屋に入れるようにしている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時には、事業所のマニュアルに添って動き、ホットライン使用する。また、訪問看護へ連絡を取り対応している。月1回の職場内研修で、緊急時の対応の研修も行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>夜間・昼間想定と地震避難訓練の年2回実施しています。近隣の施設にも知らせて応援をもらう体制で実施しています。</p>	<p>年2回の災害訓練を夜間・昼間を想定して1回は消防署の指導を受けている。隣接している老人保健施設や近くの同法人の事業所と協力して実施している。避難場所は、近くの公園になっている。消火訓練も同時に実施している。備蓄は、水・カップ麺・レトルト食品等、3日分位の備蓄品がある。階段からの避難の時、タンカ使用の訓練をしている。緊急連絡網に地域の役員も入っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>母体である同系列病院の実施する研修にも参加し、各自のスキルアップに努めている。また、ユマニチュード等の勉強会をホームでも実施している。言葉つかいなどにも気を配り人格を尊重し、プライドに傷がつかないようなことばかけを意識するよう伝えている。</p>	<p>マニュアルを基に事業所内で毎月勉強会を実施し、母体の研修会にも参加している。排泄誘導時の声掛けやトイレの使用時のカーテン、入浴は個室である。入室時のノックと声掛け等、言葉遣いにも気配りをしている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>「何々しましょうか」「何々しませんか」等、常に同意が得られるような声掛けしている。常に入居者が選択しできるよう声掛けしている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>生活レクやレクリエーション活動の声掛けは強制では無く本人が自由に参加できるよう努めている。入居者がしたい事やしている事が継続できるよう対応している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>訪問カットを2ヶ月に1回実施している。衣類は常に整理整頓し本人が好む物が分かりやすく選べるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事形態は誤嚥のある入居者も含めて1人1人異なるが好みも聞き献立を立てている。</p>	<p>個別に対応した食事形態を実施。誕生日は利用者の好みの食事の提供を行い、ケーキを手作りしている。魚が好きなのがよく新鮮な刺身など食べられるように工夫している。料理作りやテーブル拭きなど一緒にしている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量・水分量は記録し、口頭で申し送っている。飲水拒否がある場合は、それに代わる飲み物を提供し栄養バランスや、カロリーについては同系列の病院の管理栄養士に評価を貰っています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後必ず職員が各入居者に声掛けし、居室案内し、口腔ケアの介助見守り確認を行っている。義歯は定期的にポリデント消毒している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>「基本はトイレで排泄」を常に心がけている。常に情報を共有し入居者一人ひとりの排泄パターンを把握している。本人の訴えを尊重しトイレ案内を行っている。</p>	<p>排泄チェック票から個々の排泄パターンを確認し、日中はトイレにて排泄支援をしている。ポータブルトイレでもまずは座ることを基本としている。入所前はオムツ使用者が入所してからトレーニングパンツで対応できるようになった事例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立やオリゴ糖で食物繊維が十分とれるよう計画している。適度に運動を行っている。排便状況を記録し必要に応じて処方薬の下剤で調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	毎日入浴日となっており希望時に随時入浴できるようになっている。温泉の為喜ばれ入浴される。	入浴は週3回を基本にいつでも入れるようにしている。温泉が出るので喜ばれている。羞恥心や恐怖心等に配慮している。入浴を嫌がる利用者には声をかける時間を考慮したり、介護者を交代して、無理強いしないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の活動を多くし、軽体操やテレビ体操、生活レクリエーションも多く取り入れ夜間の睡眠を確保できるように支援しています。体調や表情も考慮し、仮眠も短時間取り入れています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の処方箋や薬情もファイルに綴じていつでも見れるようにして、与薬は介助し、飲み込みの確認迄しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居者のできる力を職員は把握して、できるレクリエーションはお願ひしています。終わったら必ず評価してお礼を言うようにしています。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>大型バスで花見やミカン狩り等感染対策をしながら行事を取り入れて職員と一緒に出かけられる様に支援をしています。コロナウイルスのため外出制限の中でもホーム前の花壇を覗いて頂くなどできる中で配慮しています。</p>	<p>天気の良い日は散歩を行い花壇の花を眺めたり外気浴をしている。感染予防に努めながら、外出計画を立て年4回乗り物から降りることなく、コスモスの花を見たりミカン狩りを楽しんで、気分転換を図っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の心配や、大切さを理解している入居者には家族からお金をちゃんと預かり金庫に保管していることを伝えています。希望されれば買い物支援もするようにしています。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>ご家族からの電話は本人につながる交流を持っていただくように支援している。ご家族にはいつでも電話連絡が取れる状況にあることを伝えています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用スペース(台所・食堂)には常に食器洗いの音、ごはんの匂い、昔なじみの音楽、生活感が身体で感じられるよう家庭的な雰囲気である。</p>	<p>ホールは光が多く差し込み明るく、感染予防のため、空気清浄機を設置し定期的に窓を開放している。台所が近くにあり一緒に調理する利用者もいたり、ホールでくつろぐ利用者が多い。壁に利用者と職員で手づくりの作品を展示している。テレビやソファ等があり、ゆっくりくつろげるよう工夫している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共用スペース(台所・食堂)にはソファや椅子が置いてあり自由に過ごせるような工夫をしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居前に使っていた家具や使い慣れたもの、好みのものを持ってきてもらい、生活環境が大きく変化がないようにして、居心地よく暮らせるように支援しています。</p>	<p>居室は広く洗面台やトイレのある部屋もある。エアコン・ベッド・タンス等の設置がある。家族の写真・テレビ・テーブル・椅子・寝具・遺影・絵等があり、使い慣れた物を自分の部屋へ置き、落ち着いた生活が維持できるよう工夫している。プライバシーも守られ安心してくつろげる部屋になっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレの位置も分かりやすく表示し廊下すべてに手すりが設置してあり安全に移動ができるようにしている。また自立支援を主にできないところをさりげなくお手伝いをしてプライドを傷つけないようケアを提供している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない